

relax

まだまだ夏な感じで行きたい!

2001|10 56
リラックス

MONTHLY
OCTOBER 2001

定価 680yen

2001年10月1日発行(毎月1回1日発行)第6巻第10号
平成12年3月17日 第三種郵便物認可

art for all: Ryan McGinness



art for all

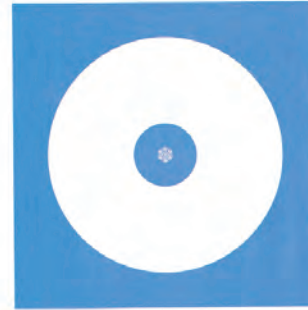
みんなのアート 27 Ryan McGinness

photo on page 26/ Hiroshi Tomita
text/ Hiroyuki Hatakeyama (Educated Community)

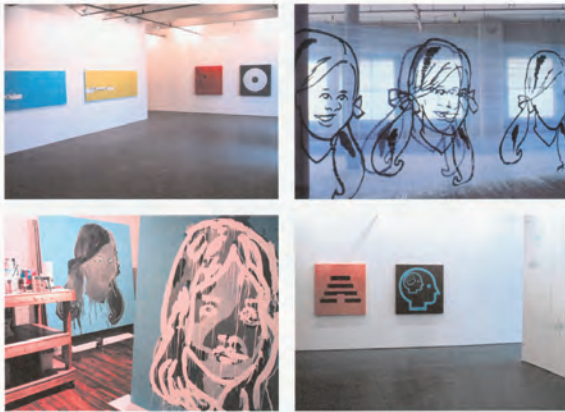
シュプリームofのデッキ、覚えてます? 印刷用の色見本みたいなデザイン(Color Formula Guide)っていうシリーズ、あれをデザインした男がライアン・マクギネスです。現在の活動のベースであるニューヨークはもろろん、パリ、ミュンヘン、バルセロナ、ヴランクーヴァーと立て続けに展覧会。みんなライアンが気になるらしい。

030

art for all: Ryan McGinness



031



ヒョロとした身体のどこに旺盛な制作意欲とアイデアが詰まっているのかって感じてです。

NYで話題を呼んでいるほどのアーティストが、彼の名前はライアン・マクギネス。つい先日までパリのコレットでショーを行っていた彼は、毎日制作りに追われているから、几帳面な性格ゆえに静かだが友人と一緒には掃除、洗濯、部屋の模様替え、週末はコメディショーと時間を惜しむことなく使っている。そんな彼はカーネギー・メロン大学出身、グラフィックとファンアートを同時に専攻し、2つの職業が交差したアーティスト時代に、1994年に卒業後、自分の好きなデザイン会社が多くあるという理由からNYに移ってきたが、ペンタグラムというデザイン会社に勤めると、ルールに従ってこなす会社の仕事に苦痛を感じ、アーティストの道を目指す。23丁目の小さなウォール・トゥー・ウォールと一緒に住み、フリーランスとして「シャツ、ステッカー、ポスター」などのデザインをこなす中で次第にアーティストになった。そんな彼の道に迫る。

____パリのコレットでのショーはどうでした？
 R 多くの素材が来てくれてオープニングはとも楽しかった。観覧会では好きなようにディスプレイさせてもらえたし、現在までの彼の出版物、Tシャツ、ステッカーなども置けたから良かったよ。自分のアートワークの中で、値段の高い物は買えなくても、気軽にステッカーなどを通して作品を知ってもらえるのはうれしいよね。ステッカーも僕にとってはアート作品だからさ。現在、このショーのためにマッチも作っているんだ。ショーのテーマの色が黒と金だったから。黒はデザインだけど、マッチの先端の部分は黄色になると思うよ。これをショーに来てくれた人にも配布するんだ。彼のアーティストを身近に感じてもらういい機会だしね。

____最近さまざまなところでショーをしているけど、印象に残っているのは？ これから行って見たい国は？
 R この間やったブルックリンのショーかな。グループではなくソロだったせいもあるけど、場所が広々として、壁ごとに異なるテーマのアートワークをセクション別に展示することができたのはうれしいね。ジュブリームのスケートボードのデザインから、壁のペインティング、アートビデオ、メタルの彫刻（NYの地下鉄などで見られる彫刻）を展示したアートワークまで、彼の作品の多様性を見せられたから本当に良かった。なかでもメタル彫刻の作品は10kgもある

から移動するのにもひと苦労だったし、展示するのに2〜3人は最低必要だったから大変だったよ。ちなみにこの作品は次のドイツのショーにも持って行くんだけど、ひと作品につき輸送するのに60万円前後かかるんだ。高いね（笑）。ロンドンと日本はいつかアートショーで行きたいよね。特に日本はまだ一度も行ったことがないからぜひ行ってみたい国だよ。

____ところで、あなたのアートワークには記号の作品が多いけどそれはなぜですか？
 R 自分をとりまく必要不可欠なものをシンプルにまとめた彫刻かな。僕は、自分が本当に必要なものだけあればいいという主義だから。だから記号への興味はそこから来ているんじゃないかな。それと、もう1つの理由はただ単に記号を覚えるのが好きなんだ。

____そういう人は、アート系に属しているものすべてにシンプルですか？
 R 本当に無駄のあるデザインが嫌いなんだ。アトリエのインディアナ冷蔵庫にいたまでこのくらいあるよ。株の株の株の大きさをいじつも変えているからね（笑）。

____それはわかりますが、プライベートで最近変化はありましたか？
 R 最近では運動不足だから、長生きするためにエクササイズマシンを買った。あとは株をやめたことかな。以前は本業にはまっていたけど株の動きをチェックして仕事の手が止まらなくなってしまったんだ。父親がプロカーで、15歳の時、特別に株の口座ももたせてくれたのがきっかけなんだよね。その頃の僕の父親の株はアップル・コンピュータだった。

____これらどのような作品を作りたいですか？
 R 自分のアートワークをデジタル化して、それを使ったものでアートを作りたいんだ。ペイントしたものをデジタル化して、コンピュータのスクリーンセーバーやマウスパッドにしりたいかな。グラフィックデザインを学んでいたというバックグラウンドが影響してか、壁からアートまでひとつの形だけでなく加工して違う形にすることが好きで、興味があるんだ。またアートを作る時、自分に挑戦になって自分の好きなものを探して作ることもいつまでも思われないよね。外の世界にいると、本当に大切なものを探さないことが多くあるからさ。

____今後の活動について教えてください。
 R 9月に開かれるドイツのミュンヘンのショー

の準備で忙しかつ、すべてのアートワークを渡ってしまった今年ではスタジオがとて広く感じたよ。ショーはブルックリンでやったのは観覧会に近い感じになるかな。取材から影響を受けて作ったメタル彫刻の作品だったし、allのショーで制作した360ピースの作品も展示されるんだ。このショーのあと、12月にハルボロフ、東京の2月にカナダのヴァンクーヴァーのTwenty Four Galleryでショーをする。そこで展示するアートワークはすべて新しい作品になると思うよ。自分の作品も一緒に売り出す予定。1年後にまた新しい本を作ろうと考えている。異なった文化、歴史、人種で構成される、世界各国から集めたスナップショットの本で、いま何千もの写真を集めている最中なんだ。僕がアルバムを持っていないからアルバムというものが理解できなかったし、どうして人が写真を集めるのが疑問だった。自分の存在を後に残しておくものだからだろうか？ それとも人々と何かを共有するためのだろうか？ 旅行から帰ってきて、写真を見ながら友達とその旅行から帰ってきた過去を共有するの、はたまた歴史を共有するの。写真を集めることについてそれぞれ理由はいろいろあるけど、とにかく写真はシンプルだから好きなんだよ。またまた作るのに時間がかかるから、楽しみに待っていて。他には僕が制作した本「Ratensiged」のリメイクバージョンも出版する予定。あの本のアートワークが、現在の僕のコレクションに入って生まれ変わるよ。

